

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400056		
法人名	社会福祉法人 さいか		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホーム楓の杜		
所在地	兵庫県豊岡市竹野町林600番地		
自己評価作成日	平成24年6月22日	評価結果市町村受理日	2012年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2012年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①プライバシーの配慮。②個別に配慮した食事(食事制限や嗜好)、施設敷地内の山菜や地元の野菜、魚介を仕入れ、旬なものや新鮮な食材を提供している。③全ての利用者へ担当職員をつけ、生活習慣や馴染みなども把握し、個別に合ったケアを目指し実施している。④家族や友人と水入らずで過ごせる空間や時間の提供。⑤今年のスローガンとして「キープ・スマイル・オールウエイズ」をかかげ、利用者、利用者家族、職員が毎日笑顔で過ごせるよう、また、一期一会の出会いを大切に、絆を深めている。⑥利用者の自己決定。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の諸施設が開設されて5年目になる。緑に囲まれた川沿いの広い土地に、高齢者ショートステイ、デイサービス、しょうがい者就労支援施設等が併設されている。去年の夏祭りには700人の方が来所された。地域に受け入れられ、浸透してきつつある。代表者は食生活を最も大切にしている。山と田んぼと海に恵まれた、この土地ならではの旬の食材を利用者に提供したいと考えている。また豊かな居住空間作りにも積極的である。最近広いウッドデッキが完成し、その向うの東屋までスリッパで行けるようになり、利用者は外気浴や散歩を楽しんでいる。穏やかな時間の流れの中で、一期一会の出会いを大切に、1人ひとりの思いに添った支援に取り組んでいる。今後利用者の重度化が予想されるので、見取り体制や職員のレベルアップなど、より強固な体制作りを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果(はるか)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「絆」と共に「あなたに出会えてよかった」と思っていたらよい全職員が出勤時等に共有でき、実践も行っている。	法人理念である「絆」のもと、利用者、家族、地域に対して責任と役割を自覚すると共に、職員同士の絆についても、大切にしていきたいと代表者は考えている。職員はその思いや、グループホームの理念「6つの愛」を共有し、一瞬一瞬のかかわりを大切に、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(盆踊り・秋祭り・運動会等)への参加、小学生の訪問、法人主催の夏祭りに地域住民を招待、山羊の毛刈り実施には地元のこども園の園児を招待し交流を図っている。	地域の行事や自治会活動、清掃活動等に積極的に参加している。当地区は豪雪地帯なので地域の雪害に対する援助として、大雪の日に困りごとがないか声かけをするなどの地域協力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は行っていないが、今後、認知症の理解等の勉強会を開催していきたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、2か月に1回運営推進会議を行っており、サービスや取り組みについて報告し、それについて、話し合いや助言等をもらっている。	2ヶ月に1回開催し、事業報告や評価の取り組み、その他の報告等をしている。行政からは情報提供等がある。それらについて意見交換をしている。その他、日々の活動や災害対策等についても話題にのぼるようになってきており、今後防災等の勉強会も検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者(高年福祉課)と連絡をとり、相談等を行っている。	市担当者から制度改正やその他情報提供が常にある。事業所からも日頃から実情を伝えており、困った時等には気軽に相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体、言葉による拘束を行わないよう、委員会を通じて研修を行ったり、月に1回ユニット会議の開催や毎日のミーティングで話し合っている。	現在センサーマット使用者が2名いる。いずれも転倒予防のため家族からの希望によるが、中止の方向で検討中である。車の出入りが多いため、門には施錠しているが、広い庭には自由に出入りできる。外に出る場合は鍵を開け、自由に出入りできるようにし、職員がそっと見守り同行している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を通じて研修を行っている。また入浴時や排泄時にボディチェックを行い、注意を払っている。	サービス向上委員会などで研修を行っている。職員同士情報を共有し、注意し合えるような環境づくりに努めている。管理者は職員が日頃から気軽に相談できるように配慮している。法人にも相談員がおり、職員のストレスや不安の軽減に努めている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット会議で研修を行った。今後についても勉強会を行う予定。	現在、日常生活自立支援や成年後見制度を活用している利用者はいない。職員研修をおこない、資料等もそろえ必要に応じて利用できる体制ができつつあるが、今のところ利用者や家族に、説明はしていない。	契約時等に家族等に制度の情報提供をされてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心になり契約前に自宅訪問し、家族の依頼等を十分に話し合っている。契約に関しても十分に説明し、理解、納得して頂いている。可能な限りユニットリーダー、担当予定職員も同行している。	契約前に原則管理者と担当予定職員が利用者宅を訪問。施設での暮らしや、利用料その他契約内容について時間をかけて説明し、不安等の軽減に努めている。分かりやすく丁寧な契約書が作成されている。事前に見学し納得して契約するよう勧めている。改定の場合は文書や口頭で充分説明し了解を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは日常生活の中で意見・要望が聞けるように努力している。又、ご家族へは、6か月に1回無記名でのアンケートをしており潜在的な意見を運営に反映させている。玄関先にも「萬箱」を設置している。アンケート結果はホームページにて見る事が出来る。	利用者や家族が面会時等に、意見を言いやすい雰囲気や信頼関係づくりに努めてる。年2回実施しているアンケートは無記名にすることで、潜在的な意見を掘り起こせるようになってきている。「散歩やリハビリ用に遊歩道を作ってはどうか」という提案があり、実現することになった。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各リーダーを中心に管理者・副施設長も参加し、月に1回のユニット会議を開催。ユニットの問題点を議論すると共に職員の意見交換、提案を聞いている。その中で子供が小さい職員に関して勤務制限等が発生する為職員の子供対象に託児所開設に向けて準備中。	代表者に直接相談したり、意見を言いやすい環境にある。また1人ひとりの思いを把握するため職員アンケートを実施している。ユニット会議等で自由に意見を出し合い、職員同士の関係性にも配慮している。以前提案があった職員の子供を対象とした託児所を、今年度中に開設する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間が終われば、退勤し、休日は身体を休めるよう指導している。また、正職員登用や資格修得のための配慮も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が、ケース担当や行事担当を受け持ち、委員会に所属したりと責任や役割を持ち、向上を図っている。また、委員会を通し、内部研修の参加、外部への研修を受けるように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は地域の他のグループホームとは交流はないが、今後、事例等話し合い、意見交換できる場を設けていきたい。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人への面会の機会を設け、本人の思いや要望を聞く。また、できるだけ見学してもらい、安心して利用できるよう配慮している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や契約前に家族の聞き取りや不安に思っている事を話してもらうために自宅への訪問し、落ち着いた中で聞き取りを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービスを利用していた方は、ケアマネより情報を提供してもらう。また、利用時の様子については、関係機関との情報を共有し、本人、家族の思いを聞き、可能な限り実現できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の趣味や特技などを探り、個々の力を引き出し、生き生きと過ごして頂けるよう見守っている。また、入居者から学ぶ姿勢も持つようになっている。利用者すべてに担当職員をつけ、施設生活を行う上での不安やその方の思いを十分理解し、ケアにあたっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会をご利用者とその家族のみで居室やゲストルームで行い過ごしていただく。また、月1回利用者の様子を手紙にて家族へ知らせている。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との電話のやりとり、面会をしていたいたり、外出先にご利用者の行きたい場所やなじみの場所を組み入れる。センター方式の一部を使用し、より細かな支援が行えるよう取り組んでいる。	地元出身者が少ないため、友人知人の訪問はあまりない。電話での交流や年賀状のやりとりで馴染みの関係の継続を図っている。利用者からの聞き取りや、日々の会話の中から、個々の思いをくみとり、支援につなげようとしている。馴染みの美容院へのお出かけ支援等は実施しているが、外出の機会は減る傾向にある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を把握した上で、外出の際にご一緒に出て頂いたり、孤立するご利用者がでないように職員が間に入りコミュニケーションがうまくとれるよう支援している。	

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族への連絡や必要に応じて相談等を受けている。また、情報が必要な場合は、提供している。他界され、退所となった方には、ご家族様の方の了承を得て、月命日等にお参りをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の自己決定を大切にし入居者・家族の意向に沿った支援を行えるように努力している。	担当制を実施し、利用者との関係性を大切にしている。1対1で育まれた信頼関係の中で、1人ひとりの思いや希望を把握している。その中で得た情報は職員間で共有し、ユニット会議等で職員全員で検討している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の概況表、ご本人やご家族面会時にお聞きする情報のほかに入所後の関係を構築しながら本人からの情報収集を行い生活歴を聞き記録している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が毎日ケース入力、食事、水分摂取量の入力することにより、1人1人の生活リズムを把握するようにしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者や担当職員を中心に、介護計画を作成している。プランについても現場職員デスクにプランのコピーをファイリングしている。作成するにあたっての情報収集は管理者や担当職員を中心にご本人、ご家族、職員に行っている。	更新時には、本人、家族、担当職員、計画作成者でサービス担当者会議を開き、ケアプランの見直し等の話し合いの機会を持っている。またユニット会議等で職員全員の意見を聞いている。毎月モニタリングをおこない課題を明らかにしているが、計画書に充分反映されるには至っていない。	モニタリングで明らかにされた課題や目標、サービス担当者会議で出た本人や家族の希望等を計画書に反映することで、より一層の日々の支援を期待したい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の各ご利用者の記録をデータ化する事で全職員での共有化が可能となっている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内に飼っている山羊や陸ガメ、犬を見に散歩に出かけたり、畑づくりや山への山菜とり等一人一人のニーズにあったサービスの提供に努めている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の盆踊り、秋祭りなど地区の行事に参加している。美容院、買い物、市役所の図書館に行き、本を借りるなどの付き添いを行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に添い、入所前からのかかりつけ医への受診に対応し、信頼関係が得られるようにしている。また加齢とともに重度化してくる場合も踏まえ、必要に応じて主治医、家族、施設側で今後のケアについても話し合っている。	原則、かかりつけ医の受診を継続とし、定期受診は担当職員が支援している。定期外の受診は家族が同行し、必要に応じて職員も付き添い、情報の共有を図っている。緊急時や必要時は、個別に精神科医療について嘱託医の協力、助言を随時仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師と連携を図り、定期的なバイタルチェック健康チェック等の支援や体調変化時の助言もを受けている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、本人や家族の同意のもと、必要に応じて情報提供や看護サマリーを提供している。また、退院後の環境整備なども病院の担当看護師と相談している。退院についても管理者やユニットリーダー、担当職員が対応し、引き継ぎを行うなどの連携を図っている。	普段の健康管理と併せ特に疾患等のある人には、些細な状態変化も見逃さず、家族と早期での相談を行っている。入院した場合は毎日訪問し、利用者の不安軽減や様子確認にも努め、早期退院に向け医療関係者と連携を図っている。退院後は、職員が家族の協力も得て通院による支援を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ看取りは行ったことがなく、体制は整っていないが、家族・医療機関と連携し最後までその人らしい人生を送ってもらえるように、今後、体制を整備していく。	事業所は本人、家族の要望に添い出来るだけ支援していく姿勢であり、そのための終末期に向けた体制整備については、具体的なマニュアル作成、及び看護師や嘱託医との連携等についての検討を予定している。現在該当者が2名おり、状態変化に応じて随時、家族とも話し合いを持っていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、症状別マニュアル等もあり、職員は、消防主催の普通救命講習を全職員が受講し、急変時や事故時の対応に備えている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回非難訓練(昼想定、夜間想定)を実施している。消火器の取扱や消火活動の手順についても学んでいる。近隣との訓練については、実施出来ていない。	定期的に、可能な利用者と共に避難経路等の確認、訓練を実施しており、特に夜間での対応は重視して行っている。地元との連携の必要性は認識しているが、近隣住居地から少し離れているため具体的な訓練実施にはまだ至っていない。	避難訓練に立ち会ってもらうきっかけづくりから、防災全般を捉えた福祉拠点としての役割を担うべく、地域との協力関係を築いていかれてはどうか。

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に十分留意し、プライバシーや羞恥心への配慮や言葉かけにたいしても適切に行っている。入浴に関しても可能な限り、同性介助を実施している。	言葉かけや関わりは、利用者の表情やしぐさを見ながら利用者の気持ちを推し量り、寄り添っている。聞こえにくい方への排泄の誘導等は、居室でのさりげない声かけなどを心がけている。利用者個々への細かい配慮についてはミーティングや申し送りノートで職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話を通じて、ご本人の思いや希望をくみ取り自己決定出来るよう対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人の希望に沿えるように対応し、調理、掃除等それぞれの日課を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じカットや毛染めを行うため理美容室への外出を行っている。介助を要するご利用者はご家族と相談し美容師にきてもらいカットしている。また、衣類に関しても好きな物を選んで頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや希望を取り入れたメニューづくりを行っている。調理や配膳は職員と一緒に出来る事を行っていただく。昼食は職員と一緒に摂っている。	週に1回の食材の買い出しに利用者も一緒に行ったり、週3回来る魚屋で利用者も品定めするなど、共に旬の素材を活かし、おいしく食べる工夫をしている。利用者の好みのメニューや食しやすい調理法も参考にしている。その日の食材に関する会話も弾み、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量が確保できにくい入居者については本人の嗜好品を提供するように行っている。また糖尿病の方に関してはマービーjam・エリスリムを使用しカロリーを控えた提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨き等ご利用者に応じた口腔ケアの援助を行っている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけることによって一人ひとりの排泄パターンの把握し自立に向けた支援を行っている。	利用者の重度化が徐々に進んできており、毎日の食事や水分量の把握、又薬の変更や副作用等の影響など排泄の失敗が続いた場合、早期に看護師と連携し、時には主治医の指示を仰ぐこともある。チェック表から排泄の間隔の調整を行い、出来るだけ失敗を防ぎ自尊心への配慮にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけ、排便のない日が続く場合は散歩や運動を促したり、看護師と相談し下剤等を使用している。毎朝、ヤクルトやヨーグルトジュースを飲んでもらっている。(排便を促している)		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々には入浴日は決めていないが希望・要望に応じ、最低週2回入浴出来るようにしている。また、夜間浴も行っている。希望者は、毎日入浴されている。	入浴の最低回数は一応あるが、その人の体調や希望を優先して好きな時に入浴してもらっている。日曜日は希望により併設デイサービスの人工温泉を利用したり、時には季節風呂なども楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はゆっくり休んで頂けるよう配慮し、朝の起床時刻もご利用者の好みに合わせるなど、一人ひとりの生活ペースに応じて支援している。また週に1回シーツ交換を行い、天気の良い日は布団を干して安眠できるように整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・効能を記載した書類は個別ファイルに保管。薬は管理者が管理し、配薬は前日夜勤者が薬箱へセットする。出勤職員全員が薬箱の配薬内容を確認する体制を取っている。薬変更・症状の変化をケース記録・ノートへ記載、またミーティングにて報告を行い全職員が周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた趣味・役割(料理、草花の手入れ、掃除、壁紙作り等)を行っている。生活歴や趣味を把握し楽しみや生きがいにつながるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人敷地内に飼っている山羊への餌やりや敷地周辺の散歩、買い物、ドライブは職員と共に行っている。また、今後も墓参りや自宅への外出に関しては、ご家族の協力も得て実施予定にである。	気候に応じて外気浴も兼ね、テラスやデッキで過ごしたり、敷地内を散歩している。食材の買い出しや個々の要望に応じた買物、受診時を利用してドライブすることもある。今後外食希望の人には、希望の店に出かけられるよう個別の情報把握を行い、実施していく予定である。	

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人希望により、自分で管理出来る方は、少額のお金を所持されている。個人希望の買い物や外出時にレジ前で支払をしてもらっている。また現金を自分で管理している入居者については紛失しないよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望される方には近隣事業所にある公衆電話、固定電話から家族からの電話も本人が出れるよう配慮している。手紙に関しては、届いて読むことは出来ても返事を返す事が困難となっており、職員が代筆するなどの支援を行っている。	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間には季節の花を飾り、玄関には毎月季節に応じた飾り付けを行っている。快適な生活が送れるように温度計、湿度計での把握、調整を行っている。	生活の場としての四季の移ろいを、見て感じてもらえることを心がけている。テラスや玄関からの広いデッキでは東屋が設けられ、お茶やバーベキューができる広いスペースとなっている。空気清浄器等を整備し、感染症予防や空調にも配慮している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間として使用している場所には共有のテーブルの他に1～2名で利用できるソファを設置している。また畳コーナーには冬場には炬燵を設置し少人数の利用者で過ごせるようにしている。テラスにはテーブルを置き、天気の良い日は外で喫茶を行う。	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の馴染みのものをも持ち込んで頂けるようにしている。ご希望に応じ畳に布団かベッドかを選択して頂き、ご本人にとって心地よく、安全な居室の配慮に努めている。	大型の木製の引き戸に手作りの木の表札がかけられ、室内は畳敷きとなっている。個々の生活スタイルに合わせた寝具が選択でき、ゆとりある洗面スペースも備わっている。使いこまれた生活用品に囲まれ、居心地良く過ごされている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には表札を掛けたり、トイレの入り口に暖簾を掛け誰からも分かりやすいようにしている。また、利用者の目線で表示している。	